



# Earth Rise

No. 2 1

平成 26 年 11 月 13 日(木) 発行

矢掛高校の活動や地域の様子・E S D  
等について発信していきます。

岡山県立矢掛高等学校長 川上公一



## 社会実験「町家イベント」開催

11月9日矢掛大名行列にあわせて「町家イベント」が開催されました。これは、街並みの古民家・空店舗等を活用するための社会実験です。

若者の提案をもとに、矢掛の町に新しい息吹を吹き込みます。参加から参画への取組の一つです。

ところが当日は、あいにくの雨。石井醤油店軒先で計画していた福祉面の販売は、急遽社会福祉協議会テントに変更しました。福祉面は水に弱いのです。

今回特に注目したいのは、矢掛街並み子ども連合と体喜ぶ会が協働で開催した、「消しゴムではんこをつくろう！オリジナルハンカチ」のイベントです。

会場は、何年もの間だれも住んでいなかった古民家・空店舗です。この店舗を中学生が中心となって、片付け、清掃しました。見違えるようになりました。



空店舗活用では、一つの空店舗をどうするかだけを考えるのではなく、地域や商店街が連携して、地域の視点から空き店舗を活用することが求められています。つまり、『面的な』空店舗活用です。矢掛の場合は、旧山陽道に沿った『線的な』活用です。街なみのコンセプトを設定し、様々な立場の人が協働で空店舗を活用しながら、商品を販売し、サービスを展開することが必要です。

鳥取市鹿野町の先行事例を見ても、どうやって若者を引き込んでいくのかが成功の鍵を握ります。NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会副理事長の小林清氏は、矢掛の場合、町の中に高校があることが素晴らしいし、プロジェクトの中心戦力であるとおっしゃっていただきました。

準備ができた会場にユネスコスクール世界大会エクスカージョン(研修旅行)に参加した世界の高校生35名が訪問。中学生の指導でオリジナルハンカチを作りました。大変喜んでいただきました。

今回、高校は独自の活動をしますので、矢掛街並み子ども連合の主体は中学生にお任せしました。矢掛で大名行列が始まったのは1976年の豪雨災害がきっかけでした。矢掛中心部の大半が床上浸水するという甚大な被害を受け、その復興の足がかりとして同年11月に「矢掛の商工まつり」として大名行列がスタートしました。



現在の大名行列は地元の商工会を主体に企画運営され、矢掛高校も活動の一翼を担っています。